

全体

	5	4	3	2	1	0
論点の明確さ	主要な論点や主張及び最も言いたいことが、聴衆が聞いてははっきりとして分かりやすく、強く印象に残る。	主要な論点や主張が伝わり、最も言いたいことははっきりとして分かりやすい。	論点や主張が整理されていて、基本的な論点がかかるようになっている。	論点や主張についての整理がある程度(部分的に)出来ており、言いたいことがある程度伝わってくるが改善すべき点がある。	論点や内容の整理が十分でなく、言いたいことがあまり伝わってこない。	論点が明確でなく、何が言いたいことなのか全く伝わってこない。
論理的構成と展開	結論に至るまでのプロセスが、プレゼンテーションの効果を高める応用型(年代順型、問題解決型、分析型等)を用いて構成されており、論理的に一貫した内容になっており、説得力がある。	結論に至るまでのプロセスが、プレゼンテーションに関する基本型(序論、本論、結論の流れ)を用いて構成されており、論理的に一貫しており理解しやすい。	結論に至るまでのプロセスは、プレゼンテーションに関する基本型(序論、本論、結論)を用いて構成している	結論に至るまでのプロセスはたどれるが、構成・展開の型や、内容の論理性に改善すべき点がある。	結論に至るまでのプロセスの整理ができていない。結論は示されているが、なぜそのような結論になるのかわかりにくい	論理的構成をたどることができない。
主張の立論に必要な資料(図表、統計、文献引用等)の利用	立論に必要な資料(説明、事例、図、統計、類推)を、効果的で信頼のできる複数の情報源(本、論文、Web、リサーチ結果等)から選択して正しく引用し用いている。	立論に必要な資料を、信頼できる複数の情報源(本、論文、Web、リサーチ結果等)から選択し、用いている。	立論に必要な資料を用いているが、情報源(本、論文、Web、リサーチ結果等)の選択や、引用方法や長さがある程度(部分的に)できている。	立論に必要な資料を用いているが、情報源(本、論文、Web、リサーチ結果等)の選択と選択部分が適当であるとはいえず、引用・参照方法に改善すべき点がある。	立論に必要な資料を参照しているが、出典が明らかでなく、立論の根拠とは伝わってこない。	立論に必要な資料を使えていない。
プレゼンテーションの技術(音声的表現:声の大きさ、声の高さ、話すスピード、話の間の取り方など)	言葉の選択が適切であり、声の大きさや声の高さ、話すスピードや話の間の取り方が適切である。聞き手にとってわかりやすく効果的なプレゼンテーションになっている。	言葉の選択に誤りがなく、声の大きさや声の高さ、話すスピードが適切で、話の間の取り方が聞き手に配慮されている。	言葉の選択にほとんど誤りがなく、声の大きさや声の高さ、話すスピード、話の間の取り方がある程度(部分的に)できている。	言葉の選択の誤りは部分的にみられ、声の大きさや声の高さ、話すスピード、話の間の取り方(「えー」「あー」といった口頭のつなぎ言葉が耳に残る等)のいずれかに改善すべき点がある	言葉の選択に誤りがあり、声の大きさや声の高さ、話すスピードが適切で、話の間の取り方(「えー」「あー」といった口頭のつなぎ言葉が多い)に問題がある。	言葉の選択に誤りが多く、音声的表現の技術を意識的に使えていない。声が聞き取りにくく、終始一本調子である。

<p>プレゼンテーションの技術 (非音声的表現：アイコンタクト、身振り、姿勢、服装、雰囲気など)</p>	<p>聞き手に対する目配りや身振り、姿勢等の効果的な身のこなしで、聞き手の反応を確認しながら魅力的なプレゼンテーションをしている。資料やノートに眼を落とすことよりも聴衆により多くの視線を向けながら話している。場に合った服装で発表者が自信を持って堂々と話しているように見える。</p>	<p>聞き手に対する目配りや身振り、姿勢等の効果的な身のこなしができていく。資料やノートに眼を落としてはいるが、聞き手に視線を向けながら話している。場に合った服装で話している。</p>	<p>聞き手に対する目線や身振り、姿勢等の効果的な身のこなしが部分的にできている。資料やノートに眼を落としてはいるが、聞き手に時折目線を向けながら話している。場に合った服装で話している。</p>	<p>聞き手に対する目線や身振り、姿勢等の身のこなし方や服装のいずれかに改善すべき点がある。聞き手に視線を向けるより、資料やノートに眼を落としながら話している。</p>	<p>聞き手に視線を向けることがほとんどなく、資料やノートを読みながら話している。第三者に伝わりにくい発言や態度が見られ、服装にも問題がある。</p>	<p>聞き手をまったくみておらず、非音声的表現がまったく活用されていない。第三者にわかりにくい発言や態度に終始しており、場をわきまえない服装で違和感を感じさせている。</p>
--	---	--	---	--	---	---

- 必要に応じてこのコモンルーブリックの下段に項目を追加することができます。
- これをもとに下位学年用のライティングⅠ、および上位学年用のライティングⅡを作成しています。
- 通常は、対象学年にあわせたルーブリックをご利用ください。

	3	2	1	0
論点の明確さ	論点や主張が整理されていて、基本的な論点に分かるようになっている。	論点や主張についての整理がある程度(部分的に)出来ており、言いたいことがある程度伝わってくる。	論点や内容の整理が不十分で、言いたいことがあまり伝わってこない。	論点が明確でなく、何が言いたいことなのかが全く伝わってこない。
論理的構成と展開	結論に至るまでのプロセスが、プレゼンテーションに関する基本型(序論、本論、結論)を用いて構成できている。	結論に至るまでのプロセスはたどれる。構成・展開の型と、内容の論理性に改善が必要である。	結論に至るまでのプロセスの整理ができていない。結論は示されているが、なぜそのような結論になるのかわかりにくい。	結論が明確でなく、論理的構成をたどることができない。
主張の立論に必要な資料(図表、統計、文献引用等)の利用	立論に必要な資料(本、論文、Web、リサーチ結果等)を選択して用いている。	立論に必要な資料は用いている。情報源(本、論文、Web、リサーチ結果等)の選択や選択部分の選択に改善が必要である。	立論に必要な資料を参照しているが、出典が明らかでなく、立論の根拠としては十分ではない。	立論に必要な資料を使えていない。
プレゼンテーションの技術(音声的表現:声の大きさ、声の高さ、話すスピード、話の間の取り方など)	言葉の選択にほとんど誤りがなく、声の大きさや声の高さ、話すスピード、話の間の取り方がある程度(部分的に)できている。	言葉の選択の誤りは部分的で、声の大きさ、声の高さ、話すスピード、話の間の取り方(「えー」「あー」といった口頭のつなぎ言葉が耳に残る等)のいずれかに改善すべき点がある。	言葉の選択に誤りがあり、声の大きさや声の高さ、話すスピードが適切で、話の間の取り方(「えー」「あー」といった口頭のつなぎ言葉が多い)などに問題がある。	言葉の選択に誤りが多く、音声的表現の技術を意識的に使っていない。声が聞き取りにくく、一本調子である。
プレゼンテーションの技術(非音声的表現:アイコンタクト、身振り、姿勢、服装、雰囲気など)	聞き手に対する目線や身振り、姿勢等の効果的な身のこなしができている。資料やノートに眼を落としてはいるが、聞き手に時折目線を向けながら話している。場に合った服装で話している。	聞き手に対する目線や身振り、姿勢等の身のこなし方や場に合った服装が部分的にできている。聞き手に視線を向けるより、資料やノートに眼を落としながら話していることが多い。	聞き手に視線を向けることがほとんどなく、資料やノートを読みながら話している。第三者に伝わりにくい発言や態度が見られ、服装にも問題がある。	聞き手をまったくみておらず、非音声的表現がまったく活用されていない。第三者にわかりにくい発言や態度に終始しており、場をわかまえない服装で違和感を感じさせている。

- このルーブリックは「1年生春学期～2年生春学期」を対象にしています。
- 必要に応じて、このコモンルーブリックの下段に項目を追加することができます。

	3	2	1	0
論点の明確さ	主要な論点や主張、最も言いたいことが、聴衆の誰が聞いてもはっきりとして分かりやすく、強く印象に残る。	主要な論点や主張、最も言いたいことがはっきりとして分かりやすい。	論点や主張が整理されていて、基本的な論点分かるようになっている。	論点や主張についての整理が部分的に出来ており、言いたいことがある程度伝わってくるが明確とはいえない。
論理的構成と展開	結論に至るまでのプロセスが、以下のようなプレゼンテーションの効果を高める応用型を用いて構成されており、論理的に一貫した内容になっており、説得力がある。 ・年代順型 ・問題解決型 ・分析型	結論に至るまでのプロセスが、プレゼンテーションに関する基本型(序論、本論、結論)を用いて構成されており、論理的に一貫しており理解しやすい。	結論に至るまでのプロセスが、プレゼンテーションに関する基本型(序論、本論、結論)を用いて構成しているが、論理的なつながりに改善すべき点がある。	結論に至るまでのプロセスはたどれるが、構成・展開の型と、内容の論理性に改善すべき点がある。
主張の立論に必要な資料(図表、統計、文献引用等)の利用	主張の立論に必要な資料(説明、事例、図、統計、類推)を、主張の立論に効果的で信頼のできる複数の情報源(本、論文、Web、リサーチ結果等)から選択して正しく引用し用いている。	主張の立論に必要な資料を、信頼できる複数の情報源(本、論文、Web、リサーチ結果等)から選択し、用いている。	主張の立論に必要な資料を用いているが、情報源(本、論文、Web、リサーチ結果等)の選択や、引用方法、長さに改善すべき点がある。	主張の立論に必要な資料を用いているが、情報源(本、論文、Web、リサーチ結果等)の選択や選択部分が適切とはいえず、引用・参照方法の一部に誤りや不十分な点がある。
プレゼンテーションの技術(音声的表現:声の大きさ、声の高さ、話すスピード、話の間の取り方など)	言葉の選択が適切であり、声の大きさや声の高さ、話すスピードや間の取り方が適切である。その結果、聞き手にとってわかりやすく効果的なプレゼンテーションになっている。	言葉の選択に誤りがなく、声の大きさや声の高さ、話すスピードが適切で、話の間の取り方が聞き手に配慮されている。	言葉の選択にほとんど誤りがなく、声の大きさや声の高さ、話すスピード、話の間の取り方が部分的にできている。	言葉の選択に誤りがみられ、声の大きさや声の高さ、話すスピード、話の間の取り方(「えー」「あー」といった口頭のつなぎ言葉が耳に残る等)のいずれかに改善すべき点があるが、いくつかの音声的表現の技術を使おうとしていることは伝わってくる。

<p>プレゼンテーションの技術 (非音声的表現：アイコンタクト、身振り、姿勢、服装、雰囲気など)</p>	<p>聞き手に対する目配りや身振り、姿勢等の効果的な身のこなしで、聞き手の反応を確認しながら魅力的なプレゼンテーションをしている。資料やノートに眼を落とすことよりも聴衆により多くの視線を向けながら話している。場に合った服装で発表者が自信を持って堂々と話しているように見える。</p>	<p>聞き手に対する目配りや身振り、姿勢等の効果的な身のこなしができている。資料やノートに眼を落としてはいるが、聞き手に視線を向けながら話している。場に合った服装で話している。</p>	<p>聞き手に対する目線や身振り、姿勢等の効果的な身のこなしが部分的にできている。資料やノートに眼を落としてはいるが、聞き手に時折目線を向けながら話している。場に合った服装で話している。</p>	<p>聞き手に対する目線や身振り、姿勢等の身のこなし方や服装のいずれかに改善すべき点がある。 聞き手に視線を向けるより、資料やノートに眼を落としながら話している。</p>
--	---	--	---	---

- このルーブリックは「2年生秋学期～」を対象にしています。
- 必要に応じて、このコモンルーブリックの下段に項目を追加することができます。